【講義内容・スケジュール案】（木曜５・６時限目／４月～１月）※学事暦の変更等の都合により、日程変更の場合あり。

回	開講日	テーマ・ファシリテーター	目的・内容
1	4/13	「オリエンテーション」 福原 康司　（経営学部教授） 間嶋 崇（経営学部教授） 「アイスブレーク」 Learning by Teaching	オリエンテーションを行い、プログラム内容・スケジュールの説明、履修手続き等の事務連絡を行う。また、前期チーム活動であるビジネスコンテスト（企業家からリアルな経営上の課題・問題を提示してもらい、その解決策について出題者の企業家の前でプレゼンし評価を受け、表彰される）とそのチームについて説明する。
2	4/20	「ビジネスモデルとフィールドワーク」 （ビジネスアイデア発想と現地調査の方法） 福原 康司　（経営学部教授）	ビジネスモデル発想法とチーム活動に欠かせないフィールドワークについて、調査方法や実現可能性の検証方法などを学ぶ。
3	4/27	「リーダーシップの基礎としての伝える技法」 （語る技法や対話・議論する技法） Learning by Teaching	チューターによるLearning by Teaching。リーダーシップを発揮するためには、「伝える力」が不可欠である。ここでは論理と感情にバランスよく訴えるプレゼンテーションとは何かを学ぶ（出題企業様からの課題報告に紐付けしたグループワークの実施）。
4	5/11	「心理的安全をつくるリーダーシップ」 和田 早矢氏　㈱ツクルバ コミュニティマネジャー/2014年文学部卒	メンバーの自発性を高め、ビジョンに向かってチームが前向きになるには、チームにおける心理的安全の確保が非常に重要である。この回では心理的に安全な場をつくるリーダーシップについて学ぶ。
5	5/18	前期ビジネス・アイデア・コンテスト準備1	これまでの内容を踏まえ、各チームがビジコンのプレゼン内容を洗練させ、次週の中間報告に備える。担当のチューターや教職員から適宜フィードバックをもらう学びの場とする。
6	5/25	前期ビジネス・アイデア・コンテスト中間報告1	プログラム内で実施する前期ビジネス・アイデア・コンテストのための中間報告会を実施する。
7	6/1	「ビジネスモデルとマーケティング」 （マーケティングに基づいたビジネスモデルの発想方法と演習） 細川 拓氏　㈱STORY&Co.代表取締役	革新的ビジネスモデルとターゲットセグメンテーションとの密接な関係について、その論理と実践についてグループワークを通じて学ぶ。
8	6/8	前期ビジネス・アイデア・コンテスト準備2	これまでの内容を踏まえ、各チームがビジコンのプレゼン内容を洗練させる。担当のチューターや教職員から適宜フィードバックをもらう学びの場とする。
9	6/15	「社会的企業家に学ぶリーダーシップ」 （公的利益を探求するリーダーの論理と実践） 秋本 可愛氏　㈱Blanket 代表取締役/2013年商学部卒	参加者1700名を越える日本最大級の介護に志を持つ人達のコミュニティ「HEISEI KAIGO LEADERS」の運営を行う上でどのように人を巻き込んでいるのか、そのストーリーを交え、理論と実践について学ぶ。
10	6/22	前期ビジネス・アイデア・コンテスト中間報告2	中間報告の2回目を行う。
11	6/29	「プロジェクトにおける目標の設定と達成」 （プロジェクトマネジメントの実践方法と演習） 日比谷 勉氏　パーソル総合研究所FHRラボ代表/ 1987年経済学部卒	チームでの活動を推進する上で目標の設定と達成の道筋を可視化することが不可欠である。これらの方法を学び、プログラム内のチーム活動や自身のチーム活動の計画的実行の礎を構築する。
12	7/6	前期ビジネス・アイデア・コンテスト　リハーサル	次週の前期ビジコン本番の発表に向けて、リハーサルを行う。
13	7/13	前期ビジネス・アイデア・コンテスト本番 「起業家のビジョン必達のリーダーシップ」 藤田健太氏(株)インサイト（株）グラフ 代表取締役/2010年商学部卒	各チームによるプレゼンと出題企業様からのフィードバックおよび表彰式を行う。また、起業家が自身のビジョンやビジネスアイデアをどのように発想し、磨き、実現するのかそのマインドセットと方法について学ぶ。
14	7/20	前期　個人・チームリフレクション1 （自身のリーダーシップを内省する）	チームならびに個人のリフレクションを通じて、自身の目指すリーダーシップはどのようなもので、それに照らして自身のこれまでの活動はどのようなものと評価できるかを深掘りする。
15	7/27	前期　個人・チームリフレクション 2 （自身のリーダーシップを内省する）	個人・チームリフレクションの第2回目を実施する。
夏期休暇			

16	9/21	「失敗から学ぶリーダーシップ」 （失敗体験の共有とアクションプランの作成） 福原 康司（経営学部教授）	人は失敗から学ぶとよく言われるが、実際には失敗から目を背け、深い内省をもって教訓にできる人は少ない。そこで、前期チーム活動における各々の失敗のエピソードをワールドカフェを通じて共有し、そこから得られた共通の失敗要因と対処行動について考える。さらに、後期ビジコンのテーマとチームについて説明する。
17	9/28	「ダイバシティとリーダーシップ」 （多様性を包摂しプロジェクトを推進する方法と演習） 半澤絵里奈氏（株）電通グループ/2009 年法学部卒	現在もこれからもプロジェクトをより良いものにするには、多様な価値を包摂しながらそれを協働の力に変えていくことが不可欠である。そこで、ダイバシティを包摂しプロジェクトを推進するリーダーシップについて、その重要性を学ぶ。
18	10/5	「リーダーシップとフォロワーシップの理論」 （リーダーとフォロワーとの人間関係学） 間嶋 崇（経営学部教授）	リーダーシップとは多様な他者理解が基本であるが、リーダーシップ研究もまた多様性に富んでいる。そこで多様なリーダーシップ理論の変遷を学び、リーダーとフォロワー双方の立場を学ぶ。それを通じて、自身のリーダーシップを振り返る。
19	10/12	後期ビジネス・アイデア・コンテスト中間報告 1	プログラム内で実施する後期ビジネス・アイデア・コンテストのための中間報告会を実施する。
20	10/19	「経験的な学びを言葉にするための言語化スキル」 （編集技術に関するファシリテーション） 孝田 純一氏　コアプランニング㈱ コピーライター/2009 年法学部卒	リーダーは心に抱いているビジョンを、周囲にわかりやすくしかも魅力的に伝えるために、可視化しなければならない。そこで自己の経験、チーム活動における経験を材料に、それを魅力的に可視化するための言語化と編集のスキルについて学ぶ。
21	10/26	「等身大のリーダーシップ」 Learning by Teaching	最終個人報告に向けたチューターによる learning by teaching。自分たちの昨年のチームならびに個人としてのリーダーシップの学びを発表し、チームのさらなる協働の重要性を伝えるとともに、最終個人報告のあり方を示していく。
22	11/2	「リーダーシップ経験の内省と表現」 （経験を振り返りメタ言語で語る方法） 谷口　秀人氏　㈱RiceBall 代表取締役/1994 年経営学部卒	これまでのチーム活動を振り返り、リーダーシップという視点から自身の強み・課題を自らの言葉で言語化する。①なぜなぜによる自身の価値観・大事にしていることを掘り下げること②ジョハリの窓を踏まえての無自覚・無意識の日常の自身を認知することにより、自身の発揮するリーダーシップの未来に対して【始めの一歩】を踏み出してもらう。
23	11/9	後期ビジネス・アイデア・コンテスト中間報告 2	中間報告の 2 回目を行う。
24	11/16	「組織の再生に学ぶリーダーシップ」 （信用・信頼・判断・決断の人間学） 恩田 英久氏　㈱恩田事務所 代表取締役/1992 年法学部卒	各チームによるプレゼンと出題企業様からのフィードバックおよび表彰式を行う。経営者とともに、個人及びチームが抱える問題を一緒に議論し、解決策を思案していく。特に、ビジコンの提案内容にフィードバックを与えながら、それを通じて自らのリーダーシップについてより深い内省を促す。
25	11/30	後期ビジネス・アイデア・コンテスト　リハーサル	次週の後期ビジコン本番の発表に向けて、リハーサルを行う。
26	12/7	後期ビジネス・アイデア・コンテスト本番	各チームによるプレゼンと出題企業様からのフィードバックおよび表彰式を行う。また、起業家が自身のビジョンやビジネスアイデアをどのように発想し、磨き、実現するのかそのマインドセットと方法について学ぶ。
27	12/14	「リーダーシップの再確認」 間嶋　崇（経営学部教授）	最終個人報告に向け、これまでの学びを踏まえながら、グループワークを通じてメンバー各自のリーダーシップの再確認を行う。
28	12/21	後期　個人・チームリフレクション （自身のリーダーシップを内省する）	最終個人報告に向けて、チームならびに個人のリフレクションを通じて、自身の目指すリーダーシップはどのようなもので、それに照らして自身のこれまでの活動はどのようなものと評価できるかを深掘りする。
29	1/11	個人によるリーダーシップ最終報告会Ⅰ	本プログラムを通じてどのようなリーダーシップ能力が体得でき、どのような課題が残されたか、すなわち個々人の内省について、各々が報告を行う（その前半回）。
30	1/18	個人によるリーダーシップ最終報告会Ⅱ・総括	最終個人報告の後半を行う。また、プログラムを通じて育まれたチームワークやアイデンティティについて、プログラム生、チューター、そして教職員スタッフ全体で内省し、交流を深める。